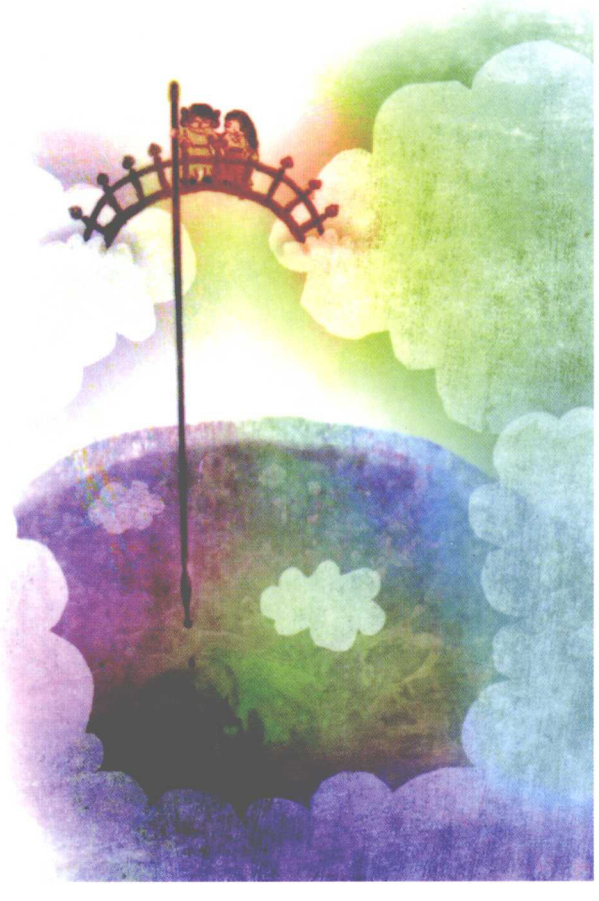
外研

日语分级读库

にほんご よむよむ文庫

Vol.2 3 ⑨

日本の神話（にほんのしんわ）『古事記（こじき）』より



日本NPO法人 日本语多读研究会　主编
松田 绿（日）　缩写
鲶江 光二（日）　插图

外研
日语分级读库

にほんご よむよむ文庫

Vol.2 3 ⑨

日本の神話『古事記』より

日本NPO法人 日本语多读研究会　主编
松田 绿（日）　缩写
鲶江 光二（日）　插图

外语教学与研究出版社
北京

京权图字：01－2008－1938

© Originally Published by ASK Publishing Co., Ltd., Tokyo Japan

图书在版编目(CIP)数据

外研日语分级读库. Vol.2. 3 ⑨/ 日本NPO法人日本语多读研究会主编 .— 北京：外语教学与研究出版社，2009.1
ISBN 978－7－5600－8121－2

Ⅰ. 外… Ⅱ. 日… Ⅲ. 日语—语言读物 Ⅳ. H369.4

中国版本图书馆 CIP 数据核字（2009）第 006901 号

出 版 人：于春迟
责任编辑：刘　军
装帧设计：王　军
出版发行：外语教学与研究出版社
社　　址：北京市西三环北路 19 号（100089）
网　　址：http://www.fltrp.com
印　　刷：北京国邦印刷有限责任公司
开　　本：880×1230　1/32
印　　张：1
版　　次：2009 年 2 月第 1 版　2009 年 2 月第 1 次印刷
书　　号：ISBN 978－7－5600－8121－2
定　　价：34.90 元（全五册）

*　　*　　*

如有印刷、装订质量问题出版社负责调换
制售盗版必究 举报查实奖励
版权保护办公室举报电话：(010)88817519
物料号：181210001

日本語を勉強しているみなさんへ

「にほんごよむよむ文庫」は、
日本語を勉強しているみなさんのための「読みもの」シリーズです。
楽しみながらたくさん読んでください。
やさしいものからたくさん読むと、知らないうちに漢字の読み方や言葉が身につきます。
読んだ話をCDでも聴いてみてください。読みながら聴いてもいいでしょう。
目からも耳からもどんどん日本語を吸収しましょう！

「にほんごよむよむ文庫」4つのルール

1 やさしいレベルから読む。
2 辞書を引かないで読む。
3 わからないところは飛ばして読む。
4 進まなくなったら、他の本を読む。

神話は、どの国にもあります。神話は、神様や国の始まりの話です。日本の神話は、千三百年ぐらい前にできた『古事記』や『日本書紀』という本に書かれています。

この本では、『古事記』の中にある話をいくつか紹介します。

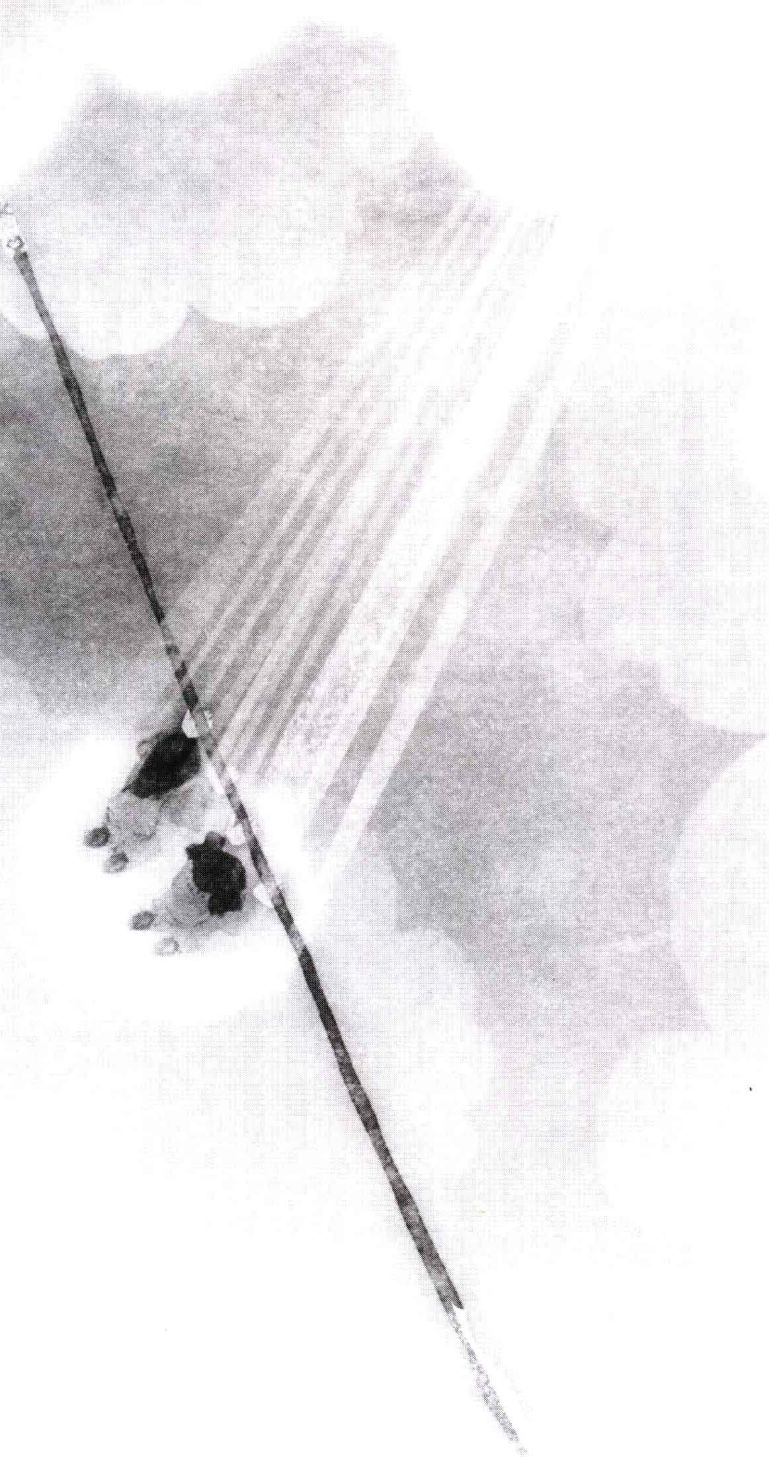
怒ったり、笑ったり、泣いたりする日本の神様たちの話を楽しんでください。

一　日本の国の始まり

世界は初め、天も海も地もはっきりしていませんでした。しかし、あるとき、天と地ができて、たくさんの神様が生まれました。

ある日、高天原（天の国）に住んでいる神様たちが会議をしました。そして、若い男女の神様を呼びました。男の神様は「伊邪那岐」、女の神様は「伊邪那美」といいます。

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com



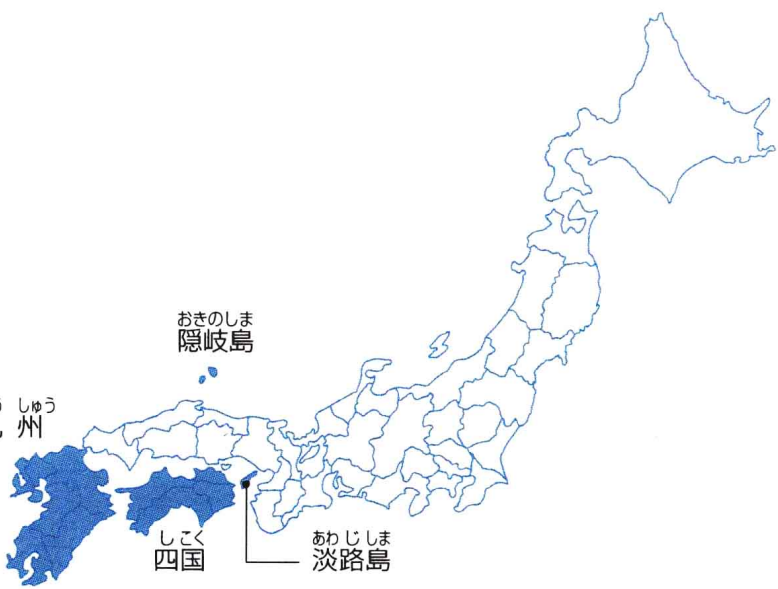
神様たちは、二人に、長い長い矛を渡して言いました。
「二人で一緒に国を作りなさい」

そのころ、高天原の下は、水と油の海のようでした。二人は、美しい天の橋の上から、その長い矛を、ずっと下の水と油の海の中に下ろしました。それから、その矛を上のほうへ上げました。すると、矛の先に付いた油のようなものが、ぽとりぽとりと下へ落ちました。それが固い地面になって、島ができました。

二人は、その島に下りて結婚しました。

二人は、初めに「淡路島」を生んで、次に「四国」、次に「隠岐島」、「九州」と、たくさんの島を生みました。

その島々が、今の日本の国になったのです。



二　死の国

伊邪那岐と伊邪那美は、日本の島を生んだ後、たくさんの神様を生みました。石の神、海の神、川の神、山の神、草の神、船の神、食べ物の神……。最後に火の神を生んだので、伊邪那美は、火で体を焼かれて死んでしまいました。

伊邪那岐は、伊邪那美が心から好きだったので、黄泉の国（死の国）へ伊邪那美を探しに行きました。黄泉の国の入り口の前で、伊邪那岐は泣きながら呼びました。

「伊邪那美、伊邪那美。一緒に帰ろう。そして、また一緒に暮らそう」

その声を聞いて、伊邪那美は黄泉の国の入り口のそばまで来ました。

「こんなところまで、よく来てくれましたね。でも、残念です。私は、この国の食べ物を食べてしまいました。ですから、もう黄泉の国の人になってしまいました。帰ることはできません。でも、私のために、あなたがここまで来てくれたのですから、黄泉の国の神様に話してみます。しばらくそこで待っていてください。こちらへは、絶対に入らないでくださいね」

伊邪那岐は、黄泉の国の入り口で伊邪那美が出てくるのを待ちました。しかし、いくら待っても伊邪那美は出てきません。

――どうして出てこないのだろう。早く会いたい――

伊邪那岐は、もう待てなくなりました。伊邪那美に「入ってはいけない」と言われていたのに、暗い黄泉の国へ入っていきました。伊邪那岐は、伊邪那美を探して暗い道をどんどん歩いていきました。

すると、伊邪那美がいました。

「あっ、伊邪那美！」

しかし、その伊邪那美は、生きていたときの美しい伊邪那美ではありませんでした。伊邪那美の体は、汚くて臭くて、小さな虫がたくさん付いていたのです。

伊邪那岐は、驚いて走って逃げました。

「入らないでくださいと言ったのに……。私の汚い体を見たのですね」

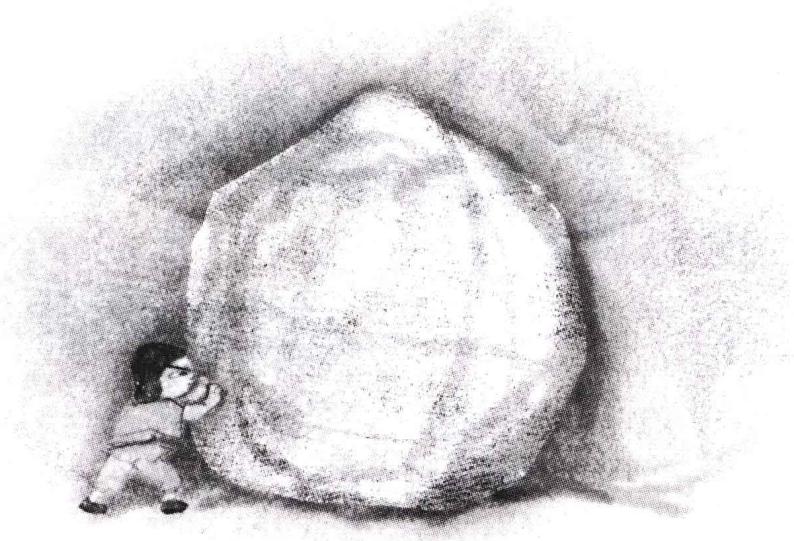
伊邪那美が、とても怖い顔で走ってきました。黄泉の国の鬼たちも連れています。

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

伊邪那岐は逃げました。走って走って、やっと黄泉の国の入り口に着くと、そこに大きな桃の木がありました。伊邪那岐は、木から桃を取って鬼に投げました。鬼は黄泉の国に逃げ帰りました。

しかし、伊邪那美は逃げません。まだ走ってきます。伊邪那美は、走りながら大声で言いました。

「待て！　伊邪那岐。私の汚い体を見たおまえを、ここから帰さないよ」



伊邪那岐は、黄泉の国から出ると、すぐに、そばにあった大きな岩を押して、黄泉の国の入り口に置いてしまいました。もう、伊邪那美は出てこられません。

伊邪那美は、岩の後ろで言いました。

「おまえがこんなことをするなら、おまえの国の人を、毎日、千人ずつ殺してやる」

伊邪那岐は答えました。

「おまえが千人殺すなら、私は、毎日、千五百人ずつ生むよ」

伊邪那美は、しかたなく黄泉の国に帰りました。

このときから、世界では、人が毎日、千人ずつ死んで、千五百人ずつ生まれるようになりました。

三　天の岩戸

伊邪那岐は、伊邪那美からやっと逃げることができました。

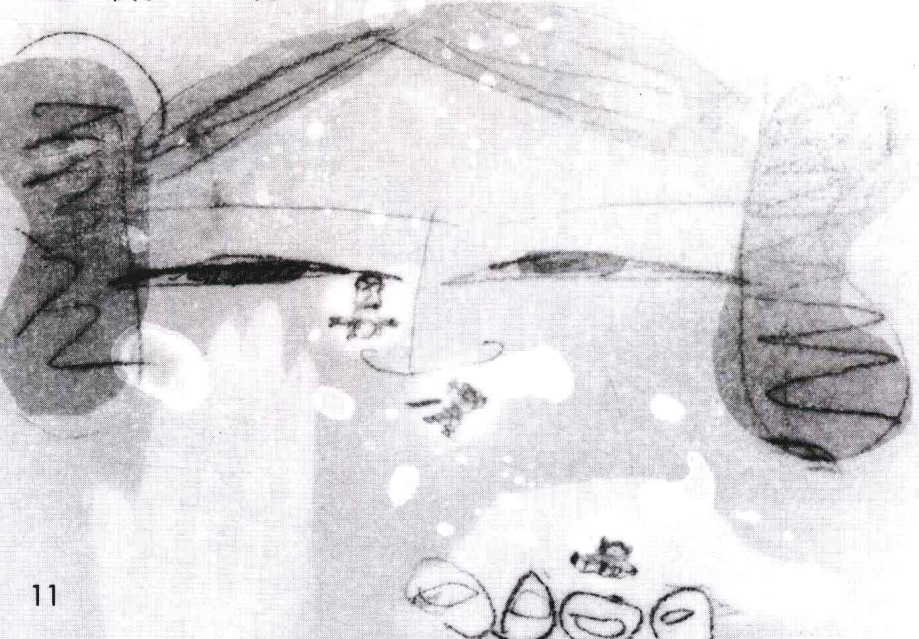
「ああ、本当に怖かった……」

黄泉の国から逃げてきた伊邪那岐は、汚くなった体を洗うために川に入りました。左の目を洗うと「天照」が、右の目を洗うと「月読」が、鼻を洗うと「須佐之男」という神が生まれました。

「ああ、とてもいい神が生まれたなあ」

伊邪那岐は喜びました。そして、三人の神様に言いました。

「天照は、天の国、高天原へ行きなさい。月読は、夜の国へ行きなさい。須佐之男は、海の国へ行きなさい」



天照と月読は、伊邪那岐の言うとおりにしたのに、須佐之男は、海の国へ行きたくないと言って、毎日、泣いてばかりいます。

父の伊邪那岐は怒りました。

「仕事もしないで泣いてばかりいるなら、ここから出ていけ！」

父に叱られた須佐之男は、

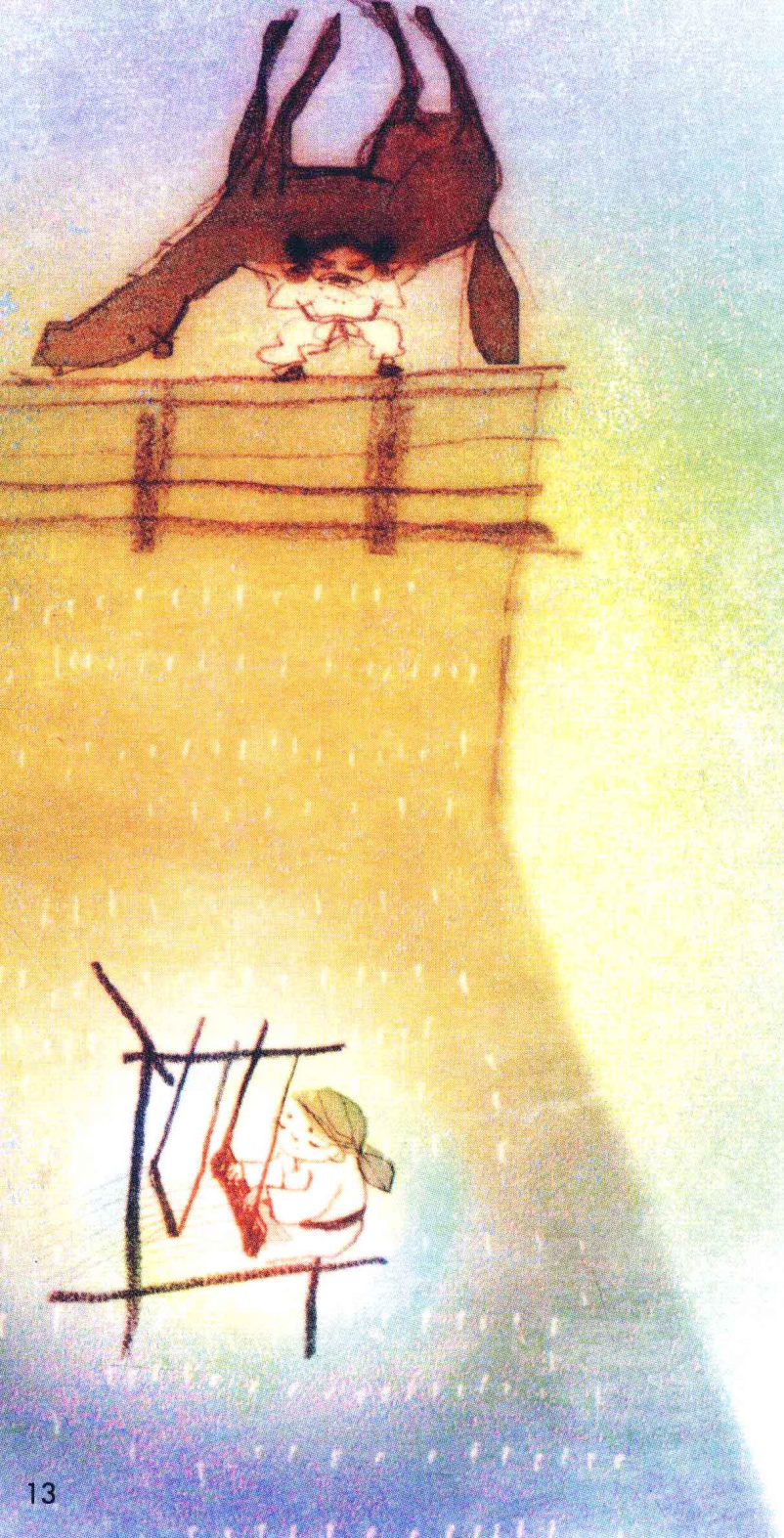
――そうだ！　お姉さんの天照のところへ行こう――

と思いました。

須佐之男は、天照のいる高天原へ行きました。天照は須佐之男に「高天原に住んでもいい」と言いました。それで、須佐之男は高天原に住み始めました。

高天原でも須佐之男は仕事をしません。毎日、田や畑の中に入って歩き回ったり、神様たちの家に汚いものを投げ入れたりしました。

ある日、須佐之男が歩いていると、家の中から布を織る音が聞こえます。須佐之男が見ると、女が神様のために布を織っていました。須佐之男は、その部屋に死んだ馬を投げ込



みました。女はとても驚きました。そして、布を織る機で体を打って死んでしまいました。

天照は、弟の須佐之男が怖くなりました。そして、「天の岩戸」という洞窟の中に入ってしまいました。

天照は光の神様でしたから、そのときから世界は暗くなってしまいました。米も野菜も取れなくなって、悪いことばかり起きるようになりました。

困った神様たちは会議をして、どうしたらいいか話しました。

ある神様が、いい方法を考えました。

神様たちは、まず、天の岩戸の前にたくさんの鶏を連れてきました。鶏は、

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com